

事業コード	H26-建-新-03		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方道路交付金事業費(改築)		部局課室名	建設部 道路課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画管理班 (tel) 018-860-2483
路線名等	一般県道 河辺阿仁線		担当課長名	柴田 公博
箇所名	秋田市河辺曾場		担当者名	浅井 学
総合計画との関連	政策コード	03	政 策 名	未来の交流を創り、支える観光・交通戦略
	施策コード	05	施 策 名	県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備促進
	指標コード	04	施策目標(指標)名	生活道路の機能強化

1. 事業の概要

事業期間	H27 ~ H31 (5年)		総事業費	4.5億円	国庫補助率	7/10	
事業規模	延長 L=1,000m 幅員 W=5.5(10.5) (2.5-1.25-2.75-2.75-1.25)						
事業の立案に至る背景	<p>一般県道河辺阿仁線は、秋田市河辺和田と北秋田市阿仁打当を結ぶ県道である。主に河辺地区、岩見三内地区の地域住民の生活道路として利用されている。</p> <p>当該区間の車道幅員は狭く、集落付近では急カーブが連続しており、車両のすれ違いが困難である。見通しが悪く歩道も設置されていないため、歩行者等の安全も確保されていない。地元および秋田市から要望を受けていることから早期に整備を実施する必要がある。</p>						
事業目的	<p>○バイパス整備による安全で円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線形改良および幅員の確保による車両等通行の安全性向上 ・通過交通の排除による沿線住民である歩行者等の安全性向上 <p>○現道拡幅整備による安全で円滑な交通の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅員の確保による車両等通行の安全性向上 						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度以降
	事業費		450,000	28,000	100,000	110,000	212,000
	経費内訳	工事費	295,000			100,000	195,000
		用補費	117,000		100,000	7,000	10,000
		その他	38,000	28,000		3,000	7,000
	財源内訳	国庫補助	315,000	19,600	70,000	77,000	148,400
		県 債	121,500	7,560	27,000	29,700	57,240
その他							
一般財源		13,500	840	3,000	3,300	6,360	
事業内容			用地測量、各種調査	用地買収	本工事、用地買収	本工事、用地買収	
調査経緯	<p>○平成20年度 道路概略設計</p> <p>○平成21年度 道路予備設計</p> <p>○平成22年度 道路詳細設計</p>						
上位計画での位置付け	○第2期ふるさと秋田元気創造プラン重点戦略(観光・交通戦略)の「生活道路の機能強化」を推進する事業						
関連プロジェクト等	○一般県道河辺阿仁線田尻工区 道路改良事業(平成25~26年度予定)						
事業を取り巻く情勢の変化	<p>○秋田市より道路整備の要望書が出されている。(平成25年)</p> <p>○地元町内会より道路整備の要望書が出されている。(平成26年)</p>						
事業効率把握の手法	指標名	県道改良率					
	指標式	各市町村役場から30分以内到達圏域の人口比率					
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無		○ 有 ● 無		
	目標値 a	97.2 %		データ等の出典	道路課調べ		
	達成値 b	98.6 %					
達成率 b/a	101.4 %		把握の時期	平成26年 4月			

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	○曲線半径が100m未満の箇所が8箇所存在し(最小20m)、冬期堆雪巾も確保されていない。 ○通学路指定区間ながら歩道が設置されていない。 ○当該区間における事故件数は5件(平成17~21年)であり、平成21年には車両相互事故により重傷者が発生している。	21点
緊 急 性	○当該区間の北側において接続する田尻工区の道路改良工事が平成26年度に完成予定であり、一連の効果を発揮するため早期に事業化する必要がある。 ○当該区間の交差点および隣接する田尻工区は、小学校通学路における緊急合同点検(平成24年実施)の危険箇所であり、田尻工区の完成後すみやかに対策を行う必要がある。	20点
有 効 性	○救急医療施設と河辺岩見三内地区のアクセス性が改善され、救急救命体制の強化が期待される。 ○通過交通がバイパス部に流れることで、集落付近の現道の交通量が減少し、歩行者等の安全確保に有効である。	10点
効 率 性	○事業の費用便益比は1.20であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値 4.4億円 ・総便益の現在価値 5.3億円 ○計画交通量は1,700台/日である。	15点
熟 度	○地元町内会および秋田市から道路整備の要望書が出されている。(町内会:平成26年、秋田市:平成25年)	15点
判 定	ランク (● I ○ II ○ III) 判定ランク I であり、事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	81点
総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留 評価結果から事業実施箇所としての優先度はかなり高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該路線は北秋田市につながる県道であり、地区の生活道路となっているが、当該区間は車道幅員が狭く、見通しが悪く歩道も設置もないため、車両通行の安全性向上を図るほか、沿線住民歩行者の安全性を向上させる必要がある。またH26年度に完成予定の北側の工区と併せた一連の効果を発揮させる有効性もあることから、事業実施の一次評価は妥当と判断される。	

4. 財政課長意見

意 見 内 容	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
当該区間は地域住民の生活道路として重要な路線であるが、幅員が狭く集落では急カーブが連続し、交通事故が発生しており危険な箇所となっているため、通学路を含めた安全性の確保の観点から事業実施の優先度は高いと判断される。また、バイパス化により補償物件が少ない安価なルートを検討するなどコスト縮減も検討されており妥当である。	

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	● 選定 ○ 改善して選定 ○ 保留
事業の実施は妥当である。	

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画的な実施に努める。

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード (H26-建-新-03)

適用基準名 道路改築事業 (地域内・生活圏交通促進)

箇所名 (秋田市河辺曾場)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題箇所数 ・車道幅員<5.5m ・最小半径<100m ・最急勾配>5% ・冬期堆雪巾なし	3箇所以上	20	15	
		2箇所	15		
		1箇所	10		
		0箇所	0		
		計	35		
	道路環境上の欠陥該当項目 ・現道の混雑度≥1.0 ・現道の旅行速度≤30km/h ・現道の事故率≥50件 ・通学路指定で歩道なし ・重大交通事故が発生	5件該当	15	6	
		4件該当	12		
		3件該当	9		
		2件該当	6		
		1件該当	3		
計	0				
緊急性	関連事業の有無 ・県の主要プロジェクト ・地域振興プロジェクト ・ほ場整備等の他事業	あり	10	10	
		なし	0		
	緊急度の高い課題の有無 老朽橋、災害危険箇所、 冬期通行不能区間等	あり	10	10	
		なし	0		
	計	20	20		
有効性	生活圏30分形成道路等	該当する	5	5	
		該当しない	0		
	救急医療施設へのアクセス道路	該当する	5	5	
		該当しない	0		
	地域防災計画上重要な道路	該当する	5	0	
該当しない		0			
計	15	10			
効率性	事業の投資効果等 費用便益比 (B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	計画交通量	1,000台/日以上	5	5	
		500台/日以上1,000台/日未満	3		
		300台/日以上500台/日未満	1		
計	0	0			
熟度	地元ニーズ	文書要望あり	10	10	
		口頭要望あり	5		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	あり	5	5	
		なし	0		
計	15	15			
合計			100	81	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上~80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		